

(トップページ:<http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(五大石油会社の業績比較:<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>)

(ブログ「石油と中東」:https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943)

マイライブラリー:0560

(注)本稿は 2022 年 5 月 9 日から 6 月 14 日まで 13 回に分けて「ブログ・石油と中東」に掲載したレポートをまとめたものです。

2022.6.16
前田 高行

ロシア経済制裁追隨で Chevron 除く4社は深傷:2022 年 1-3 月期五大国際石油企業決算速報

スーパーメジャーと呼ばれる五大国際石油企業(ExxonMobil、Shell、bp、TotalEnergies 及び Chevron)の1-3月期決算が相次いで発表された。ここでは売上高、利益、売上高利益率、設備投資、キャッシュフロー及び石油・天然ガス生産量について各社の業績を横並びで比較するとともに過去 2 年間の各社四半期決算の推移を検証する。

なお過去の四半期業績及び2010年から2021年までの通年の業績比較は下記レポートを参照されたい。

<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>

<http://mylibrary.maeda1.jp/oil.html>

目次	頁
I. 各社の業績概要	
1. ExxonMobil	2
2. Shell	2
3. bp	3
4. TotalEnergies	4
5. Chevron	5
II. 5社の業績比較	
1. 純利益	5
2. 売上高	6
3. 売上高利益率	7
4. キャッシュフロー	7
5. 設備投資	9
6. 石油及び天然ガス生産量	9
III. 過去2年間の四半期業績推移	10

I. 各社の業績概要(末尾表 1-D-4-22a、1-D-4-22b & 1-D-4-22c 参照)

(売上トップだが利益は 3 位、キャッシュフロー残高も少ない ExxonMobil !)

1. ExxonMobil

プレスリリース:

https://corporate.exxonmobil.com/News/Newsroom/News-releases/2022/0429_ExxonMobil-announces-first-quarter-2022-results

(1)売上・利益・利益率

ExxonMobil の 2022 年 1-3 月期は売上高 905 億ドル、利益 55 億ドルで売上高利益率は 6.1%であった。前期(2021 年 10-12 月期)との比較では、売上高は+6.5%増、利益は▲38%減であり、また前年同期(2021 年 1-3 月期)比では売上高は 1.5 倍、利益は 2 倍である。

売上高の増加は石油価格の上昇によるものである。因みに今年 1-3 月の Brent 原油平均価格は 1 バレル 100 ドルを超え、102 ドルに達しており前期(10-12 月)の 80 ドルから 3 割近く上昇しており、また前年同期(61 ドル)の 7 割アップであった。

売り上げ増加に対して利益が減少したのは対ロシア経済制裁に関連しサハリン I 原油生産プロジェクトの撤退処理をしたためである(後述参照)。

(2)キャッシュフロー及び設備投資

今期の営業キャッシュフローは 148 億ドル、投資キャッシュフローは▲39 億ドルであり、フリーキャッシュフローは 108 億ドルであった。また財務キャッシュフローは▲67 億ドルであり、この結果、3 月末のキャッシュフロー残高は 111 億ドルとなっている。

ExxonMobil の 1-3 月期設備投資は 49 億ドルであった。

(3)原油・天然ガス生産量

ExxonMobil の 1-3 月期原油・天然ガスの生産量は、日量平均で原油 227 万 B/D、天然ガス 85 億立法フィート(cfd)であった。天然ガスを原油に換算した原油・天然ガス合計生産量は 368 万 B/D である。

(追記)対ロシア経済制裁の業績に対する影響

ExxonMobil はロシアのサハリン I (原油) プロジェクトに 30% 出資しているが、同プロジェクトからの撤退を表明、欠損評価額として▲34 億ドルを計上した。なおこのプロジェクトには日本のサハリン石油ガス開発が 30% しているが、同社の株主は経済産業省、伊藤忠商事、石油資源開発、丸紅、INPEX である。

(ロシア事業の撤退で 42 億ドルの特別損失 !)

2. Shell

プレスリリース:

<https://www.shell.com/investors/results-and-reporting/quarterly-results/2022/q1-2022.html>

(1)売上・利益・利益率

Shell の 2022 年 1-3 月期は売上高 842 億ドル、利益 71 億ドルで売上高利益率は 8.5%であった。前期(2021 年 10-12 月期)との比較では、売上高は▲1.3%減、利益は▲38%減であり、また前年同期(2021 年 1-3 月期)比では売上高は 1.5 倍、利益は 26%増である。

売上高は前年同期比で大幅増加であるが、その主要因は石油価格の変動によるものである。一方、利益については価格の上昇により前年同期比では大きく増加したものの、前期と比較した場合、ロシア事業の撤退(後述参照)による特別損失を計上したため石油価格の上昇にもかかわらず利益減となっている。

(2)キャッシュフロー及び設備投資

今期の営業キャッシュフローは 148 億ドル、投資キャッシュフローは▲43 億ドルであり、フリーキャッシュフローは 105 億ドルであった。また財務キャッシュフローは▲90 億ドルであり、この結果、3 月末のキャッシュフロー残高は 384 億ドルとなっている。

Shell の 1-3 月期設備投資は 42 億ドルであった。

(3)原油・天然ガス生産量

Shell の 1-3 月期原油・天然ガスの生産量は、日量平均で原油 140 万B/D、天然ガス 36 億立法フィート(cfd)であった。天然ガスを原油に換算した原油・天然ガス合計生産量は 203 万B/Dである。

(追記)対ロシア経済制裁の業績に対する影響

Shell はロシアのサハリン 2(天然ガス)プロジェクトに 27.5%出資しているが、同プロジェクトからの撤退を表明、欠損評価額として▲42 億ドルを計上している。またロシアとドイツを結ぶ天然ガスパイプライン「ノルドストリーム 2」向け融資で 11 億ドルの貸倒引当金を計上、さらにガスプロムとの北極圏資源開発でも減損を行っている。なおサハリン 2 プロジェクトには三井物産(12.5%)及び三菱商事(10%)も出資している。

(五社で唯一最大、204 億ドルの大幅赤字！)

3. bp

プレスリリース:

<https://www.bp.com/en/global/corporate/news-and-insights/press-releases/first-quarter-2022-results.html>

(1)売上・利益・利益率

bp の 2022 年 1-3 月期は売上高 512 億ドルであった。これに対して損益はロシア事業からの撤退(後述)により 204 億ドルの大幅赤字を計上した。国際石油企業 5 社の中で今期損失となったのは bp だけである。売上高は前期(2021 年 10-12 月期)比で▲2%の減収、前年同期(2021 年 1-3 月期)比では 40%の増収であった。

(2) キャッシュフロー及び設備投資

今期の営業キャッシュフローは 82 億ドル、投資キャッシュフローは▲19 億ドルであり、また財務キャッシュフローは▲25 億ドルであった。この結果、3 月末のキャッシュフロー残高は 344 億ドルとなっている。

bp の 1-3 月期設備投資は 29 億ドルであった。

(3) 原油・天然ガス生産量

bp の 1-3 月期原油・天然ガスの生産量は、日量平均で原油 95 万B/D、天然ガス 20 億立法フィート(cfd)であった。天然ガスを原油に換算した原油・天然ガス合計生産量は 129 万B/Dである。

(追記)対ロシア経済制裁の業績に対する影響

bp はロシア石油大手ロスネフチの株式を 19.75%所有しているが、今期決算で株式の価値をゼロに評価している。このほか合併事業の減損損失を含め税引き前ベースで 255 億ドルの損失を計上している。

(ロシア北極海 LNG プロジェクトで 41 億ドルの損失計上！)

4. TotalEnergies

プレスリリース：<https://totalenergies.com/media/news/press-releases/first-quarter-2022-results>

(1) 売上・利益・利益率

TotalEnergies の 2022 年 1-3 月期は売上高 686 億ドル、利益 49 億ドルで売上高利益率は 7.2%であった。前期(2021 年 10-12 月期)と比較すると、売上高は+13.7%増、利益は▲15.3%減であり、また前年同期(2021 年 1-3 月期)比では売上高、利益ともには 1.5 倍である。

前期比で売上高が増加、利益が減少しているのは ExxonMobil、Shell、bp 各社と同様、石油価格の上昇とロシア事業からの撤退によるものである(後述参照)。

(2) キャッシュフロー及び設備投資

今期の営業キャッシュフローは 76 億ドル、投資キャッシュフローは▲24 億ドルであり、財務キャッシュフローは 50 億ドルの純増となった。この結果、3 月末のキャッシュフロー残高は 313 億ドルとなっている。

TotalEnergies の 1-3 月期設備投資は 29 億ドルであった。

(3) 原油・天然ガス生産量

TotalEnergies の 1-3 月期原油・天然ガスの生産量は、日量平均で原油 153 万B/D、天然ガス 72 億立法フィート(cfd)であった。天然ガスを原油に換算した原油・天然ガス合計生産量は 284 万B/Dである。

(追記)対ロシア経済制裁の業績に対する影響

TotalEnergies はロシア北極海の LNG プロジェクト「アークティック LNG2」の事業から撤退することを決定、これに伴う 41 億ドルの損失を計上した。

(油価高騰、ロシア問題無傷で好業績を謳歌する Chevron !)

5. Chevron

プレスリリース:

<https://www.chevron.com/newsroom/2022/q2/chevron-announces-1q-2022-results>

(1)売上・利益・利益率

Chevron の 2022 年 1-3 月期は売上高 523 億ドル、利益 63 億ドルで売上高利益率は 12%であった。前期(2021 年 10-12 月期)比では、売上高は 14.1%増、利益は 23.8%増であり、また前年同期(2021 年 1-3 月期)比でも売上高は 1.7 倍、利益は 4.5 倍である。

売上高の増加は石油価格の上昇によるものである。因みに今年 1-3 月の WTI 原油平均価格は 95.22 ドル/バレルであった。これは前年同期(2021 年 1-3 月)を 64%上回り、また前期(10-12 月期)を 23%超えている。Chevron の売上高増加率と価格上昇率は WTI 原油価格の上昇率とほぼ等しい。利益については他社のようなロシア問題がないため売り上げ増がそのまま利益増に直結している。

(2)キャッシュフロー及び設備投資

今期の営業キャッシュフローは 81 億ドル、投資キャッシュフローは▲7 億ドルであり、フリーキャッシュフローは 61 億ドルであった。また財務キャッシュフローは▲14 億ドルであった。なお同社決算資料では期末キャッシュフロー残高は示されていない。

Chevron の 1-3 月期設備投資は 28 億ドルであった。

(3)原油・天然ガス生産量

Chevron の 1-3 月期原油・天然ガスの生産量は、日量平均で原油 174 万B/D、天然ガス 79 億立法フィート(cfd)であった。天然ガスを原油に換算した原油・天然ガス合計生産量は 306 万B/Dである。

(追記)対ロシア経済制裁の業績に対する影響

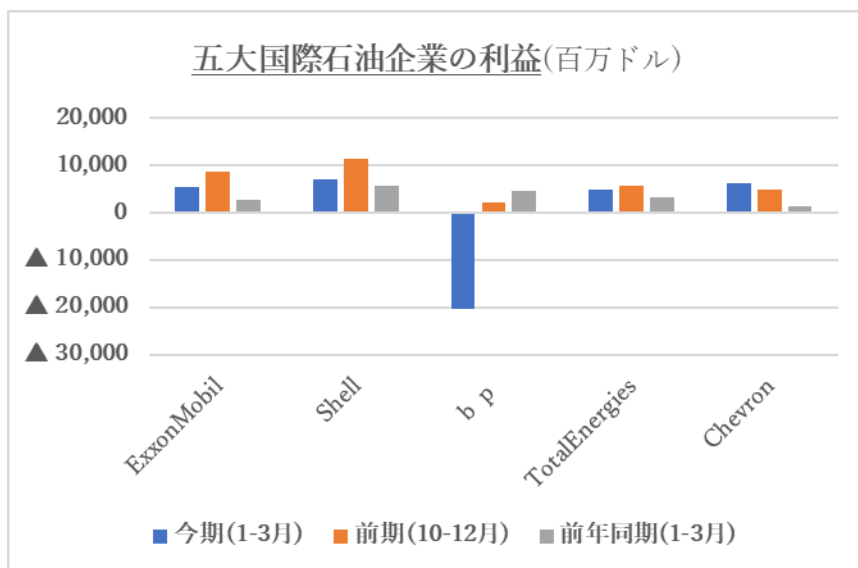
Chevron は米系企業として従来からロシア向け投資には慎重であり、今回の対ロシア経済制裁問題では 5 社の中で唯一影響を免れている。

II. 五社の業績比較

ここでは五社の当期利益、売上高、売上高利益率、キャッシュ・フロー及び設備投資を比較する。

(Chevron以外はロシア問題で特別損失計上、bpは巨額の赤字！)

1. 純利益¹



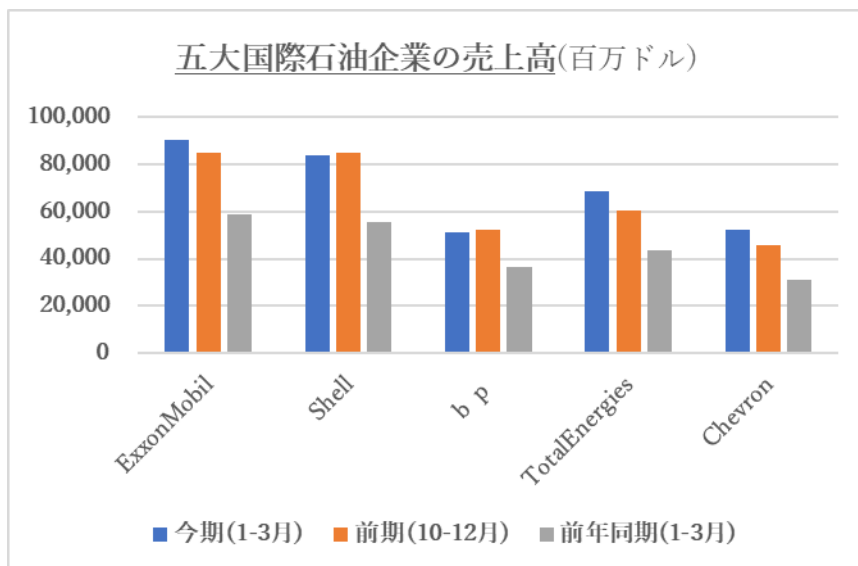
国際石油企業5社の1-3月期は前期に引き続き原油価格が高値に推移したことにより本業ベースでは大幅な利益を確保した。しかしながらExxonMobil、Shell、bp及びTotalEnergiesの4社はロシア事業で特別損失を計上、純利益に大きな影響を受けている。特にbpはロシアへの出資を解消した

たことにより巨額の費用を計上した。このような中でChevronのみは前期を上回る利益を確保している。

5社の中で利益が最も多かったのはShellの71億ドルであるが前期より38%減である。これに次ぐのがChevronの63億ドルであるが、同社の場合は前期を24%上回っている。第3位はExxonMobil(55億ドル、前期比▲38%減)、4位TotalEnergies(49億ドル、同▲15%減)である。bpは5社の中で唯一▲204億ドルの赤字であった。

(原油高値推移で売上堅調！)

2. 当期売上高²

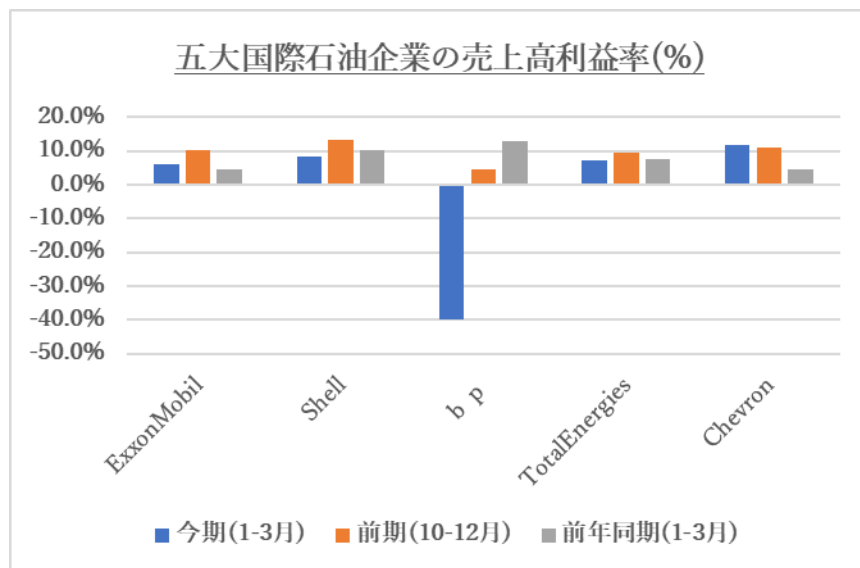


2022年1-3月期は原油価格が高値で推移したため各社とも売上高は堅調であった。5社の中ではExxonMobilが905億ドルと最も多くShellが842億ドルで続いている。TotalEnergiesは686億ドルであり、Chevronとbpは520億ドル前後で並んでいる。

ExxonMobilの売上高を100とした場合、Shellは93、TotalEnergies76、Chevron58、bp57であり、bpの売上高はExxonMobilの6割弱である。前項で触れた通り利益面ではShell、Chevron、ExxonMobil、bpの順であり、bpは利益、売上共に5社中で最も低い。

(Chevronは利益率二桁台、他4社は前期よりも悪化！)

3. 当期売上高利益率

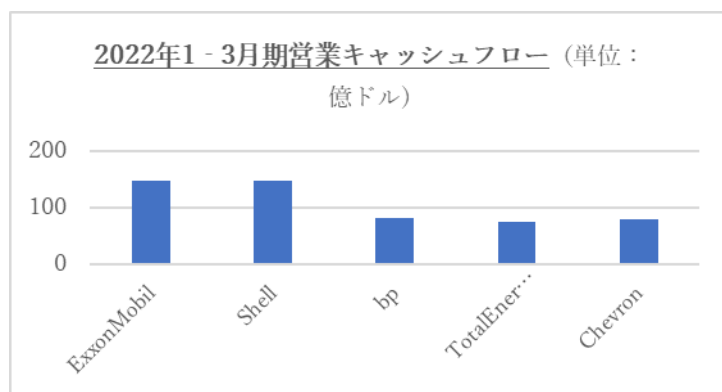


IOC5社の今期売上高利益率はChevronが12.0%と最も高く、続いてShellが8.5%、TotalEnergies7.2%、ExxonMobil6.1%であった。bpは▲40%の大幅な赤字率であった。

4. キャッシュフロー³

(ExxonMobil/Shell は他社の2倍！)

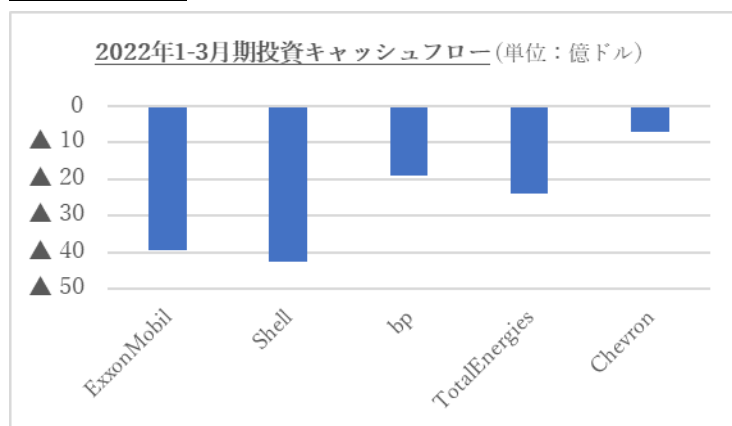
(1) 営業キャッシュフロー(以下 C/F)⁴



今期の5社の営業C/FはExxonMobil及びShellが148億ドルで並んでおり、bp、Chevron、TotalEnergiesはその2分の1強の80億ドル前後である。

(投資に意欲的なShellとExxonMobil、慎重なChevron！)

(2) 投資C/F⁵

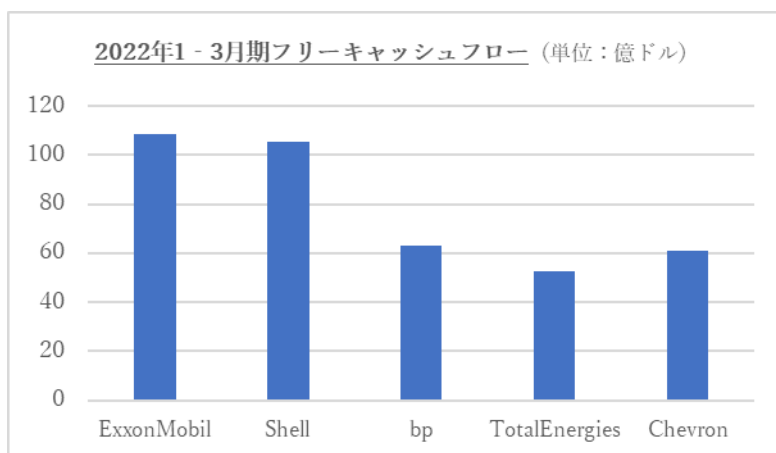


投資C/Fによるキャッシュの流出はShellが最も多く▲43億ドルであり、これに次ぐのがExxonMobilの▲39億ドルであった。TotalEnergies及びbpはそれぞれ▲24億ドル、▲19億ドルでShellの2分の1程度にとどまっている。Chevronはこれら4社に比べ投資に慎重であり同社の1-3月期の投資C/Fは▲7億ドルであっ

た。

(100億ドルを超えるExxonMobilとShell！)

(3)フリーC/F⁶

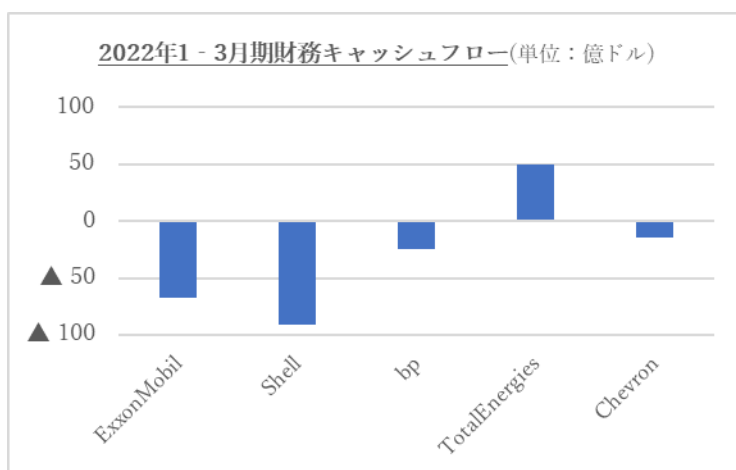


フリーキャッシュフローとは、会社が事業活動で稼いだお金のうち、自由(フリー)に使える現金(キャッシュ)がどれだけあるかを示すものである。なお5社のうちExxonMobil、Shell及びChevronは決算資料に明記されている。bp、TotalEnergiesについては上記の営業C/Fと投資C/Fの差額をフリーC/Fとして比較した。

フリーC/Fが最も多いのはExxonMobilの108億ドルであり、Shellが105億ドルでこれに続いている。bpとChevronは60億ドル強であり、最も少ないのはTotalEnergiesの52億ドルである。

(5社の中で唯一返済が調達を上回ったTotalEnergies!)

(4)財務C/F⁷

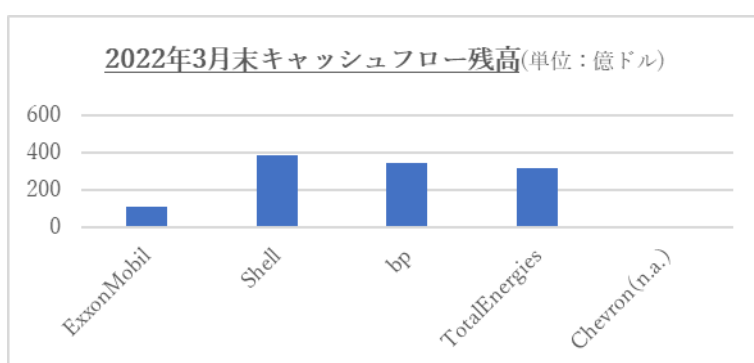


財務C/Fの収支はShellが▲90億ドルと最も大きく、これに次ぐのはExxonMobil(▲67億ドルであった。bp及びChevronはそれぞれ▲25億ドル、▲14億ドルであり、これら4社は資金の調達額が返済額を上回っている。これに対してTotalEnergiesは5社の中で唯一返済額が調達額を上回っており、差引プラス50億ドルとなっている。同社は財務体質

の強化を目指しているようである。

(残高が他社の3分の1以下のExxonMobil!)

(5)C/F 期末残高⁸



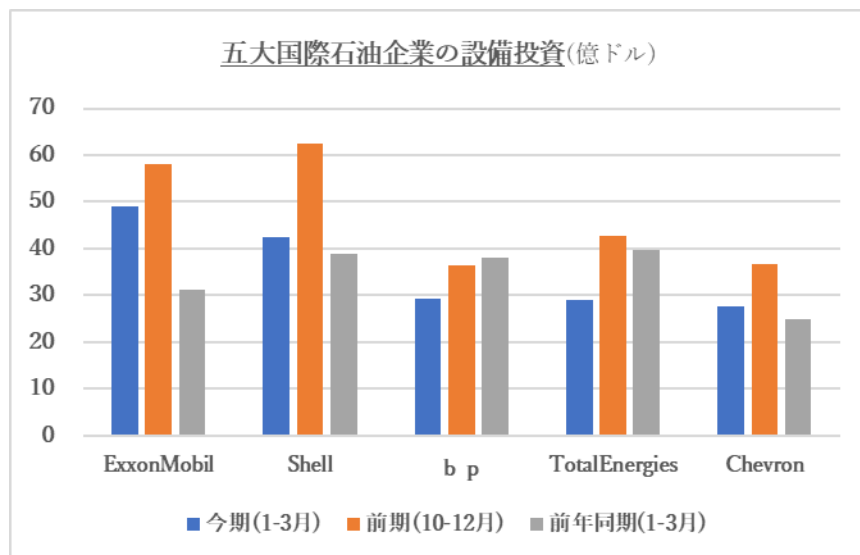
3月末キャッシュフロー残高を比較する。なおChevronは資料に残高が明記されていないためここでは4社を比較する。

残高が最も多いのはShellの384億ドルである。bp及びTotalEnergiesの残高もそれぞれ344億ドル、

313億ドルであり、3社はほぼ肩を並べている。しかしExxonMobilの残高は111億ドルにとどまり、3社のほぼ3分の1で極めて少ない。

(投資に意欲的な ExxonMobil と Shell !)

5. 設備投資⁹

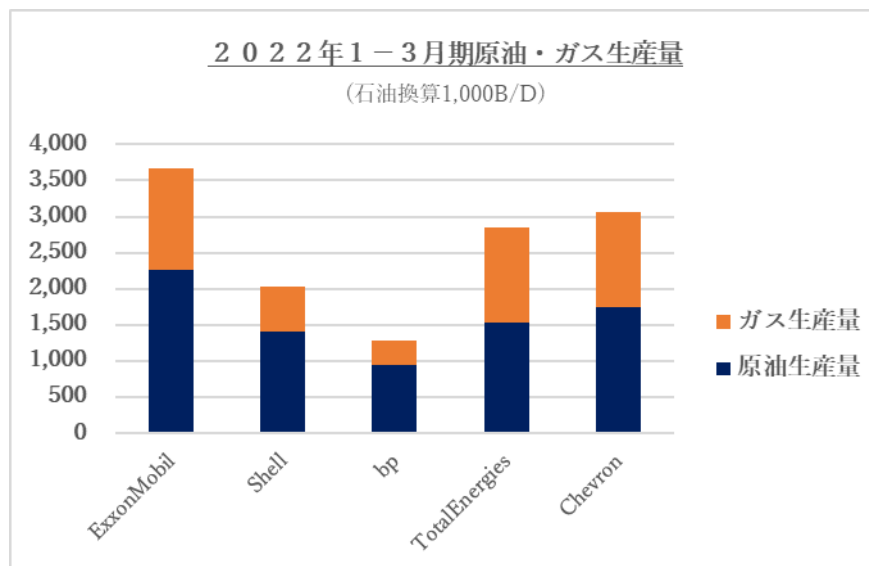


国際石油企業5社の1-3月期設備投資は、ExxonMobil が49億ドルで最も多く、これに次ぐのがShell の42億ドルである。その他の3社はbp及びTotalEnergies が29億ドル、Chevron が28億ドルであった。前期に比べるといずれも減少しているが、Shell と TotalEnergies は▲32%と5社の中で減少幅が

最も大きい。

(原油・天然ガス共に ExxonMobil がトップ！)

6. 石油及び天然ガス生産量



(1)原油生産量¹⁰

2022年1-3月期の原油生産量が最も多かったのは ExxonMobil の2,266千 B/D であり、5社の中でただ一社2百万 B/D を超えている。ExxonMobil に次いで生産量が多いのは Chevron(1,736千 B/D) で ExxonMobil の8割である。第3、4位は

TotalEnergies(1,527千 B/D)、Shell(1,403千 B/D)。bp は最も少ない948千 B/D で5社の中で唯一100万 B/Dを下回っている。

(2)天然ガス生産量¹¹

天然ガスの生産量が最も多いのは ExxonMobil の日産85億立方フィートで石油に換算すると1,409千 B/D であった。2位以下は Chevron の79億立方フィート(石油換算1,324千 B/D)、

TotalEnergies 72億立方フィート(石油換算1, 316千 B/D)と続き、第4位は Shell の36億立方フィート(石油換算622千 B/D)であり、最も少ないのはbpの20億立方フィート(石油換算338千 B/D)であった。

(3)石油・天然ガス合計生産量¹²

石油と天然ガスの合計生産量が最も多いのは ExxonMobil であり石油換算で3, 675千 B/D である。2位は Chevron の3, 060千 B/D でこの2社が合計生産量3百万 B/D を超えている。3位 TotalEnergies(2, 843千 B/D)及び Shell(2, 025千 B/D)が200万 B/D 台で、5社の中で最も少ないのは BP の1, 286千 B/D であった。ExxonMobil の生産量を100とした場合、他の4社は Chevron 83、TotalEnergies 77、Shell 55、bp は35である。Shell の生産量は ExxonMobil の2分の1、bpは3分の1となる。

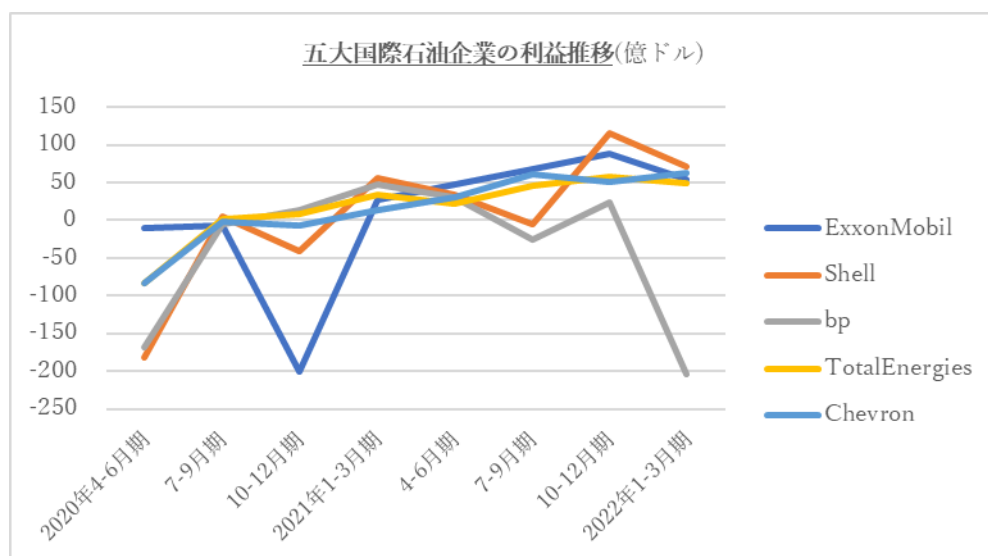
各社の石油と天然ガスの比率を見ると、ExxonMobil は石油62%、天然ガス38%であり、その他の4社は Shell(石油69%:天然ガス31%)、bp(石油74%:天然ガス26%)、Chevron(石油57%:天然ガス43%)、TotalEnergies(石油54%:天然ガス46%)である。5社いずれも石油の比率が天然ガスを上回っているが、石油の比率が最も高いのは bp(74%)で、逆に最も低いのは TotalEnergies(54%)である。

III. 過去2年間の四半期業績推移

ここでは2020年4-6月期以降2022年1-3月期までの8四半期の業績推移を比較する。

(過去8期累積でbpは300億ドルの赤字！)

1. 純利益の推移

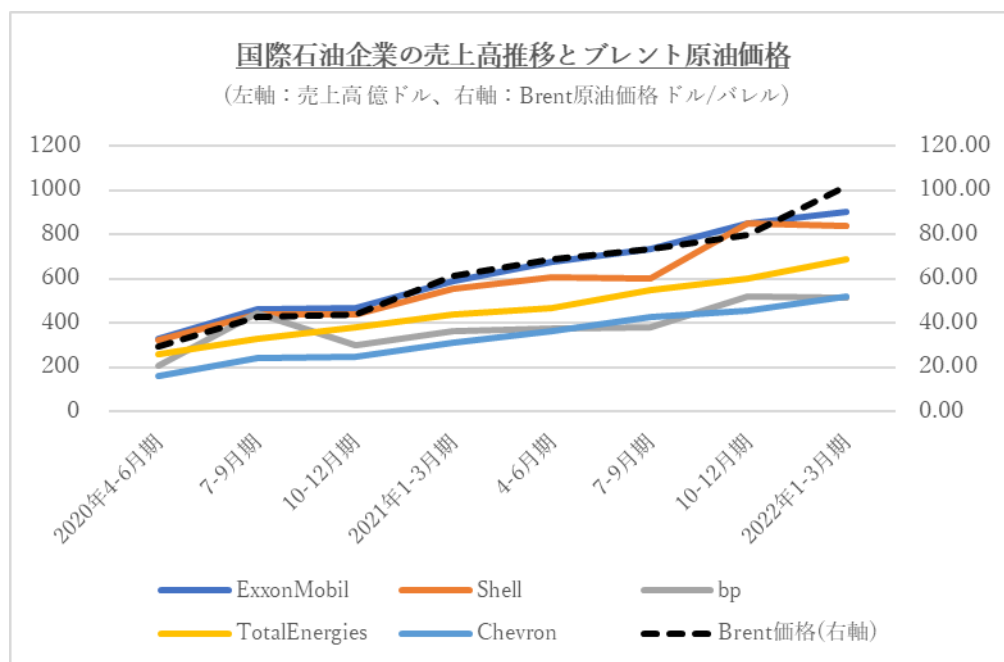


2020年4-6月期はコロナ禍の影響でShell▲181億ドル、bp▲168億ドルを筆頭に五社全てが巨額の損失を計上した。続く7-9月期もExxonMobil、bp、Chevronは赤字となり、10-12月期はExxonMobil、Shell及びChevronが赤字になるなど各社いずれも最悪の四半期決算が続いた。2021年に入ってようやく利益を計上できるまでに回復、同年の1-3月期、4-6月期及び10

－12月期は5社全てが黒字を計上している。例えば10－12月期はShellが115億ドルの利益を確保、ExxonMobil89億ドル、TotalEnergies及びChevron両社50億ドル台、bpも23億ドルの利益を計上している。2022年1－3月期もbp以外の各社の業績は堅調であった。このような中でbpのみは業績が低迷しており、過去8期のうち4期は欠損である。その累損額は▲288億ドルに達し、5社の中で唯一累積損益がマイナスになっている。

(各社とも3倍前後の売り上げ増加！)

2. 売上高の推移

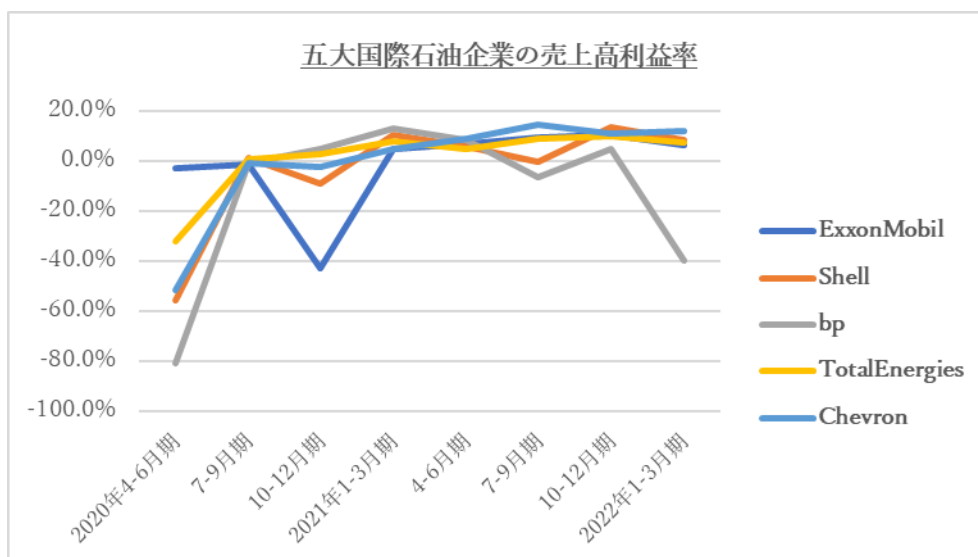


2020年4－6月期から今期(2022年1－3月期)までの売上高の推移を見ると、2020年4－6月期はExxonMobil、Shellが326億ドル及び325億ドルで並び、これに次ぐのがTotalEnergies257億ドル、bp208億ドルであり、最も少ないChevronの売上高は159億ドルであった。因みにこの期間のBrent原油価格は29.55ドル/バレルであった。

原油価格は続く7－9月期に1.5倍の43ドル/バレルに急騰し、その後も一本調子で上昇、今年1－3月期にはついに100ドルを突破している。各社もこれに比例して売上を伸ばしており、トップのExxonMobilの売上高は、326億ドル(2020.4-6月期)→462億ドル(2020.7-9月期)→465億ドル(2020.10-12月期)→591億ドル(2021.1-3月期)→677億ドル(2021.4-6月期)→738億ドル(2021.7-9月期)→850億ドル(2021.10-12月期)→905億ドル(2022.1-3月期)と每期増収を記録し、2年間の間に売上高は2.8倍に伸びている。他社も同様であり、増収率はShell2.6倍、bp2.5倍、TotalEnergies2.7倍、Chevron3.3倍になっている。

(直近3期高収益率のChevron、他社との格差開くbp！)

3. 売上高利益率の推移

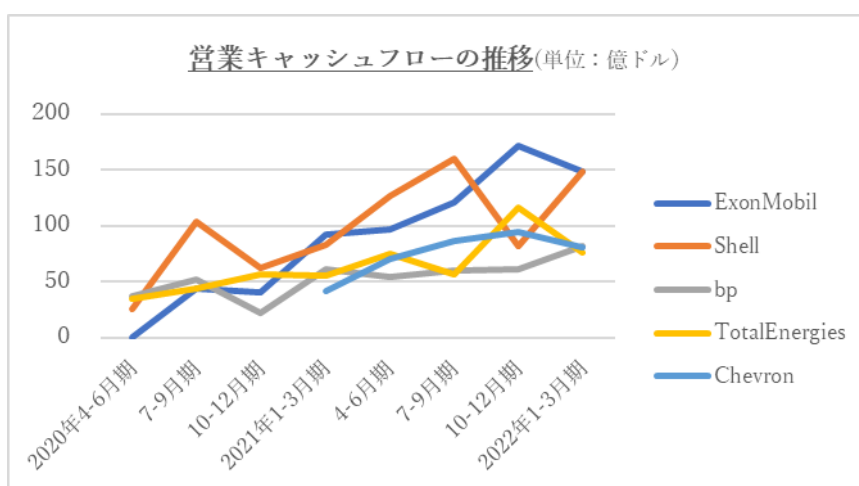


2020年4－6月期から今期(2022年1－3月期)までの IOC5社の売上高利益率の推移を見ると、2020年はコロナ禍の影響により各社とも大幅な下振れを経験しており、▲50%から▲80%の損失率になるなど悪夢の一年間であったと言えます。

2021年に入り各社とも業績が回復、1－3月期は全社の利益率がプラスとなり、この傾向は4－6月期も続いた。しかし7－9月期以降は各社の収益力に格差が生まれ、Chevronは直近三四半期に連続して二桁台の利益率を達成している。ExxonMobil及びTotalEnergies も3期続けて利益率6%以上で健闘している。Shellの2021年以降の売上高利益率は10.2%(2021.1-3月期)→5.7%(2021.4-6月期)→▲0.7%(2021.7-9月期)→13.4%(2021.10-12月期)→8.5%(2022.1-3月期)と他社に比べブレが大きいものの利益率は悪くない。これら4社に対して2021年以降のbpの売上高利益率は12.8%(2021.1-3月期)→8.3%(2021.4-6月期)→▲6.7%(2021.7-9月期)→4.5%(2021.10-12月期)→▲39.8%(2022.1-3月期)であり、他社に見劣りするだけでなく、他社との格差が開いていることが特徴である。

(売り上げ回復とともに伸びる営業 C/F！)

4. 営業キャッシュフローの推移



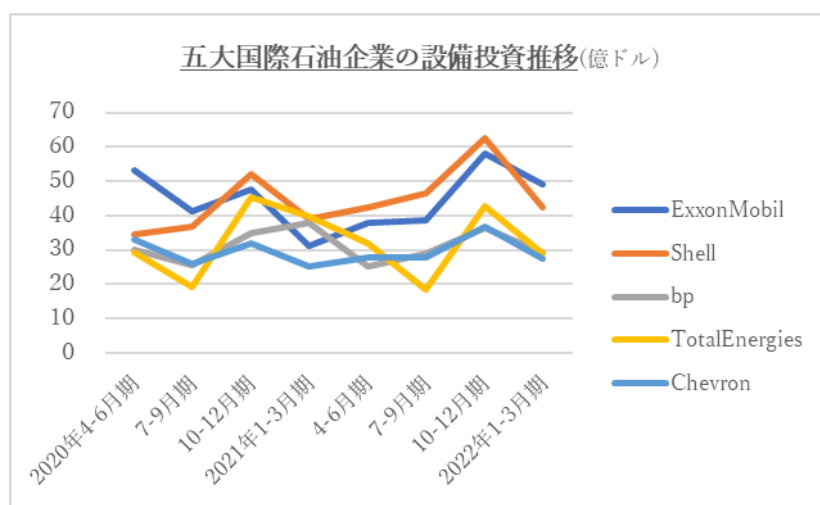
2020年4－6月期から今年1－3月期までの四半期ごとの営業キャッシュフロー(以下 C/F)の推移は概略以下の通りであった(但し ExxonMobil は2020年7－9月期、Chevron は2021年1－3月期以降)。

2020年4-6月期の営業 C/F はが最も多かったのはbpの37億ドル、次いでTotalEnergiesが35億ドル、Shell26億ドルであった。その後2020年末までの営業C/Fは各社で乱高下したが、2021年に入ると油価の高騰及び新型コロナ禍の終息傾向により各社の売上が伸び、営業C/Fも増えている。特にExxonMobil及びShellの伸びが著しく、Shellは同年7-9月期に160億ドル、またExxonMobilも10-12月期に171億ドルと過去8四半期を通じて最も高いC/Fを記録している。TotalEnergies及びChevron両社も同期に最も多いC/Fを稼ぎ出している。

2022年1-3月期はShellが増加、ExxonMobilが減少して148億ドルで並び、他の3社はTotalEnergiesとChevronが減少、bpが増加して80億ドル前後で並ぶ形になっている。

(投資に慎重な各社！)

(5). 設備投資の推移



2020年4-6月の5社の設備投資額は ExxonMobil が53億ドルで際立って多く、その他4社は30億ドル前後で並んでいる。同年7-9月期に一旦減少した後、10-12月期には再び増加、同期の投資額は Shell の52億ドルを筆頭に ExxonMobil48億ドル、TotalEnergies45億ドル、bp35億ドル、Chevron32億ドル

であった。

2021年前半は減額或いは横ばい状態を続けた後、10-12月期にはピークに達した。同期の投資額は Shell が62億ドルで最も多く ExxonMobil は58億ドル、他の3社も含め5社すべての投資額が対前期比で増加している。しかし2022年1-3月期は5社全てで設備投資が減額している。2020年4-6月期を100とした場合、2022年1-3月期は Shell が123に増加した以外、他の4社は TotalEnergies99、bp97、ExxonMobil92、Chevron83といずれも下回っている。

設備投資は各社が直近の自社の業績及び今後のエネルギー価格の動向、さらには長期的に見た炭化水素資源の需給見通し等により各社の判断が分かれるところである。長引くコロナ禍により世界経済が停滞し、また環境問題で石油企業に厳しい目が注がれているため各社とも設備投資に慎重な様子がうかがわれる。但し、石油・天然ガスの開発には長期間の投資が必要であり、短期的な投資抑制は近い将来のエネルギーの需給バランスに深刻な影響も懸念される場所である。今後の動向を注視したい。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maedat@r6.dion.ne.jp

2022年1-3月期国際石油企業の業績(売上、損益)

年		ExxonMobil	Shell	bp	TotalEnergies	Chevron
売上高(百万ドル)	今期(1-3月)	90,500	84,204	51,220	68,606	52,314
	前期(10-12月)	84,965	85,280	52,238	60,348	45,861
	増減(%)	6.5%	-1.3%	-1.9%	13.7%	14.1%
	前年同期(1-3月)	59,147	55,665	36,492	43,737	31,076
	増減(%)	53.0%	51.3%	40.4%	56.9%	68.3%
総合損益(百万ドル)	今期(1-3月)	5,480	7,116	▲ 20,384	4,944	6,259
	前期(10-12月)	8,870	11,461	2,326	5,837	5,055
	増減(%)	-38.2%	-37.9%	-976.4%	-15.3%	23.8%
	前年同期(1-3月)	2,730	5,660	4,667	3,344	1,377
	増減(%)	100.7%	25.7%	-536.8%	47.8%	354.5%
売上高利益率(%)	今期(1-3月)	6.1%	8.5%	-39.8%	7.2%	12.0%
	前期(10-12月)	10.4%	13.4%	4.5%	9.7%	11.0%
	前年同期(1-3月)	4.6%	10.2%	12.8%	7.6%	4.4%

2022年1-3月期国際石油企業の業績(キャッシュフロー、設備投資)

年		ExxonMobil	Shell	bp	TotalEnergies	Chevron
営業キャッシュフロー	今期(1-3月)	14,788	14,815	8,210	7,617	8,100
	前期(10-12月)	17,124	8,170	6,116	11,621	9,500
	増減	▲ 2,336	6,645	2,094	▲ 4,004	▲ 1,400
投資キャッシュフロー	今期(1-3月)	▲ 3,947	▲ 4,273	▲ 1,883	▲ 2,378	▲ 700
	前期(10-12月)	n.a.	2,579	▲ 1,332	▲ 3,912	▲ 1,400
	増減		▲ 6,852	▲ 551	1,534	700
フリーキャッシュフロー	今期(1-3月)	10,843	10,542			6,100
	前期(10-12月)	15,014	10,749			
	増減	▲ 4,171	▲ 207			
財務キャッシュフロー	今期(1-3月)	▲ 6,713	▲ 9,019	▲ 2,469	4,986	▲ 1,400
	前期(10-12月)	n.a.	▲ 11,764	▲ 4,739	▲ 15,134	▲ 8,300
	増減		2,745	2,270	20,120	6,900
キャッシュフロー期末残高	今期(1-3月)	11,074	38,360	34,414	31,276	
	前期(10-12月)		36,970	30,681	21,342	
	増減		1,390	3,733	9,934	
設備投資(百万ドル)	今期(1-3月)	4,904	4,237	2,929	2,903	2,757
	前期(10-12月)	5,808	6,236	3,633	4,285	3,660
	増減(%)	-15.6%	-32.1%	-19.4%	-32.3%	-24.7%
	前年同期(1-3月)	3,133	3,885	3,798	3,969	2,504
	増減(%)	56.5%	9.1%	-22.9%	-26.9%	10.1%

2022年1-3月期国際石油企業の業績(原油・天然ガス生産量)

年		ExxonMobil	Shell	bp	TotalEnergies	Chevron
原油生産量(1,000B/D)	今期(1-3月)	2,266	1,403	948	1,527	1,736
	前期(10-12月)	2,385	1,456	1,004	1,509	1,828
	増減(%)	-5.0%	-3.6%	-5.6%	1.2%	-5.0%
ガス生産量(100万 cfd)	今期(1-3月)	8,452	3,606	1,964	7,162	7,947
	前期(10-12月)	8,584	3,799	2,053	7,328	7,736
	増減(%)	-1.5%	-5.1%	-4.3%	-2.3%	2.7%
同石油換算(1,000B/D)	今期(1-3月)	1,409	622	338	1,316	1,324
	前期(10-12月)	1,431	654	354	1,343	1,289
	増減(%)	-1.5%	-4.9%	-4.5%	-2.0%	2.7%
原油・ガス合計生産量 (石油換算 1,000B/D)	今期(1-3月)	3,675	2,025	1,286	2,843	3,060
	前期(10-12月)	3,816	2,110	1,358	2,852	3,117
	増減(%)	-3.7%	-4.0%	-5.3%	-0.3%	-1.8%

¹ 「純利益」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Net income attributable to ExxonMobil (U.S. GAAP)

Shell:Incom/loss attributable to shareholders

bp:Profit (loss) for the period; Attributable to BP shareholders

TotalEnergies:Net income (TotalEnergies share)

Chevron:Net income

² 「売上高」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Total revenues and other income

Shell:Revenue

bp:Total revenue and other income

TotalEnergies:Sales

Chevron:Sales and other operating revenues

³ キャッシュ・フロー(cash flow、現金流量)とは、現金の流れを意味し、主に、企業活動や財務活動によって実際に得られた収入から、外部への支出を差し引いて手元に残る資金の流れのことをいう。欧米では古くからキャッシュ・フロー会計にもとづくキャッシュ・フロー計算書(Cash flow statement, C/F)の作成が企業に義務付けられており、日本でも1999年度から上場企業は財務諸表の一つとしてキャッシュ・フロー計算書を作成することが法律上義務付けられている。

キャッシュ・フローは(1)営業キャッシュ・フロー(日常的な、生産・営業活動によって稼得する現金と、それに要する現金コストの収支)、(2)投資キャッシュ・フロー(工場新設やビル建設・トラック購入などの設備投資・有価証券投資に要する現金支払いと資産売却による収入)及び(3)財務キャッシュ・フロー(財務活動による現金の収支)の3種類があり、これらの総合収支が会計期間内の現金収支であり、期首(前期末)の現金(及び現金相当物)の残高に期間内の収支を加えたものが当期末の

現金(及び現金相当物)となる。(Wikipedia より)

⁴ 「営業キャッシュ・フロー」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Cash Flow form Operating Activities (U.S. GAAP) / Net cash provided by operating activities (U.S. GAAP)

Shell:Cash flow from operating activities

bp:Net cash provided by operating activities, Condensed group cash flow statement

TotalEnergies:Cash flow from operating activities, TotalEnergies financial statements

Chevron:Net cash provided by Operating Activities, Summerrized Statement of Cash Flow (Preliminary)

⁵ 「投資キャッシュ・フロー」は各社資料から下記項目を抽出した。

Shell:Cash flow from investing activities

bp:Net cash used in investing activities

TotalEnergies:Cash flow used in investing activities, TotalEnergie financial statement

Chevron:Net cash Used for Investing Activities, Summerrized Statement of Cash Flow (Preliminary)

⁶ 「フリーキャッシュフロー」は ExxonMobil、Shell 及び Chevron³ 社は各社資料から抽出、bp 及び TotalEnergies² 社は営業 C/F と投資 C/F の差額とした。

ExxonMobil:Free cash flow

Shell:Free cash flow

Chevron:Free cash flow, Summerrized Statement of Cash Flow (Preliminary)

⁷ 「財務キャッシュ・フロー」は各社資料から下記項目を抽出した。

Shell:Cash flow from financing activities

bp:Net cash provided by (used in) financing activities

TotalEnergies:Cash flow from (used in) financing activities, Total financial statement

Chevron:Net cash provided by (Used for) Financing Activities, Summerrized Statement of Cash Flow (Preliminary)

⁸ 「キャッシュフロー期末残高」は各社資料から下記項目を抽出した。なお Chevron は資料に明記されていない。

ExxonMobil:Cash and cash equivalent at end of period

Shell:Cash and cash equivalent at end of period

bp:Cash and cash equivalent at the end of the period

TotalEnergies:Cash and cash equivalent at end of period, TotalEnergies financial statement

⁹ 「設備投資」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Capital and Exploration Expenditures

Shell:Capital expenditure, Consolidated Statement of Cash Flow

bp:Capital expenditure

TotalEnergies:12. Net investments

Chevron:Capital & Exploratory Expenditure, Worldwide

¹⁰ 「原油生産量」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Net production of crude oil, natural gas liquid, bitumen and tsynthetic oil

Shell:Liquid production available for sale

bp:Production (net of royalties), Liquids

TotalEnergies:

Chevron:Net liquid production

¹¹ 「天然ガス生産量」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Natural gas production available for sale

Shell:Natural gas production available for sale

bp:Production (net of royalties), Natural gas

TotalEnergies:Hydrocarbon production, Gas

Chevron:Net natural gas production, Worldwide

¹² 「石油・天然ガス合計生産量」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:

Shell:Total production in barrels of oil equivalent

bp:Production (net of royalties), Total hydrocarbons
TotalEnergies:
Chevron:Total net oil-equivalent production